

# 奈良・グリーンヒルいこまにおけるツバメの子育て研究

奈良女子大学附属中等教育学校 4年生 萩巣 樹



## 1. 研究目的

身近な野鳥であるツバメであるが、近年日本全国で減少傾向が見られている。観察場所である奈良県生駒市のすぐ近くに位置する大阪府吹田市でも、すいた市民環境会議の調査により、営巣数が減少していることが判明している。(図1) (<https://www3.big.or.jp/~sskk/kanri/110521swallow-map.pdf>)

ツバメの減少理由は殆どが子育てに関係するものであり、ツバメの子育てを調査することによりツバメの保護活動に繋げることができると考えている。

## 2. 研究内容

2018年から奈良県生駒市元町一丁目目所在するビル「グリーンヒルいこま」の3階の飲食店街でツバメの子育てを観察している。グリーンヒルいこまにはビル建設当初の40年前から多くのツバメが子育てを行っている。

放課後(17時から19時)に観察を開始し、毎日1時間ツバメの巣の前に座り、観察を行った。ツバメの雛が孵化してから巣立つまで観察を行った。これを、また、2022年度からは雛の糞の採取も行った。

## 3. 研究結果と考察

① 1時間当たりの親鳥の給餌回数は雄の方が多いのに対し、1時間当たりの親鳥の滞在時間は雌の方が長い。(図2,3)

これは、子育ての時期の雌成長には抱卵斑が存在し、ヒナを温めることがオスよりも優位になるためであると考えられる。

② 親鳥の子育ての日数は子育ての時期が遅くなるにつれ短くなる。一方で給餌回数も減少する。(図3,4)

これは、時期が異なると親鳥が給餌する餌の種類が異なるためだと考えられる。なお、雛の糞を濾過して観察することを試みたが検出されたのは昆虫のごく一部であり、目単位であっても同定することは困難であった。

## 4. 今後の展望

より正確な雛の糞分析をDNA解析により、実施中である。また、2024年度は継続的な観察の実施のみならず、親鳥の採餌場所の特定、動画解析を用いた餌のサイズの特定、より発展した啓蒙活動などを行う予定である。

## 5. 謝辞

この研究は令和4年度、5年度東京動物園協会野生生物保全基金交付により遂行されたものです。この場を借りて深く御礼申し上げます。また、多大など指導を頂き増田、顧問の櫻井昭先生に感謝申し上げます。

## 6. 参考文献

長谷川克・森本元(2020)『ツバメのひみつ』, 緑書房

神山和夫・佐藤信敏・渡辺仁(2012)『ツバメ(田んぼの生きものたち)』, 農山漁村文化協会

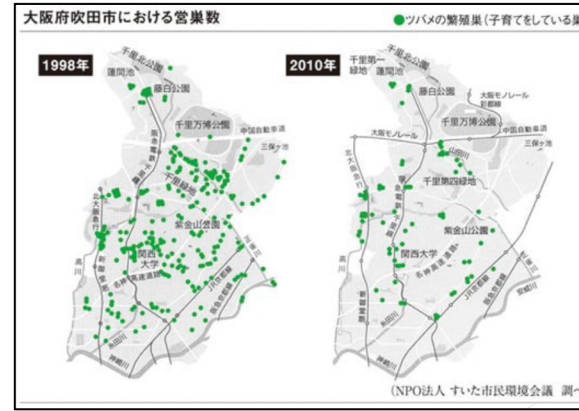


図1

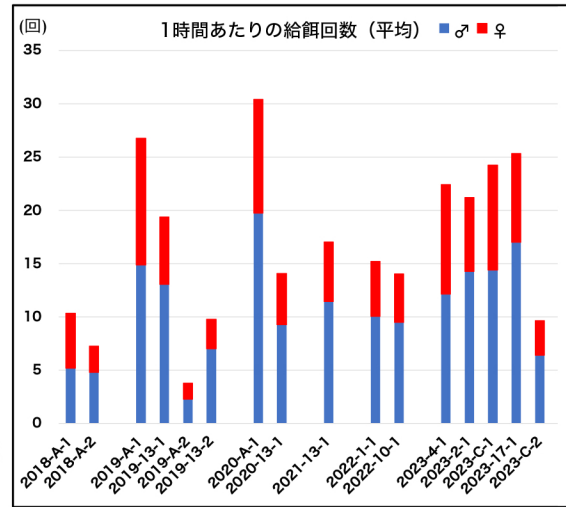


図2

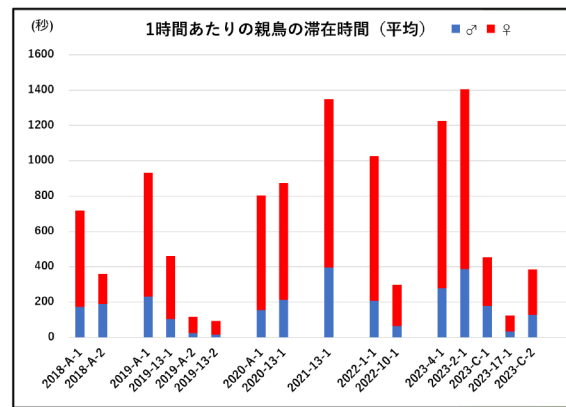


図3

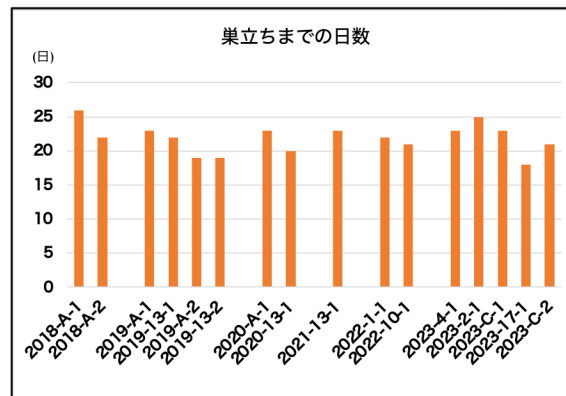


図4